
まえがき

生物の活動が環境に変化をもたらすというのは、一見なんでもない観察結果であり、あまりにも明白なことだ。科学にとっても長年おなじみであるから、これが進化に関する考えの新たな路線の焦点であるとは思えないだろう。この生物主導の環境変更プロセスは、今日ではニッチ構築として知られており、さまざまな複雑さが潜んでいる。私たちはニッチ構築が進化に果たす役割を探りはじめたとき、著者の1人にとってそれは20年以上前のことになるが、この問題のスケールの大きさがほとんどわかっていなかった。しかしまもなく、本格的に研究するとなると、個体群生態学や生態系生態学の領分に入っていかなざるをえないことがあきらかになり、それらの分野の関係をじっくり検討することになった。研究が進むにつれて、ニッチ構築の波及的影響が驚くほど大きくなるらしいということがわかってきた。いま私たちは、ニッチ構築は科学にとって根本的な問題であると考えており、本書で取り上げた領域は、その幅の広さを反映している。生態学と進化学に範囲を限定することもできたが、ニッチ構築の観点が人間科学にもたらす影響についての考察も含めることにしたのは、人間のニッチ構築がとりわけ強力だからでもあり、著者が3人とも人間生物学と文化プロセスの関係、とくに進化の文脈におけるそれに関心をもっているからでもある。また、私たち自身の種のニッチ構築に注目したことは、ニッチ構築全般を理解する助けにもなったと思う。

このように間口の広い本で、題材のすべてを専門的に熟知するのは私たちの力のおよぶところではない。学究的な本に仕上がるように全力を尽くしたが、それぞれのトピックをその分野の専門家と同じようにカバーすることはできていないと思う。ニッチ構築のプロセスが進化生物学に持ち込む問題を明確にするという点で、十分に果たせていればさいわいである。

各章について、あるいは複数の章についてコメントをいただき、また本書の題材を検討していただいた、次の方々に感謝の意を表したい。ローレン・アンセル、ロバート・アンジェ、カラム・ブラウン、トム・バーンズ、ジリアン・ブラウン、

クロード・コウムズ, ジョン・クルック, レイチェル・デイ, ポール・エリック, ピーター・ゴドフリー=スミス, バリー・ヒューレット, ロバート・ハインド, アーロン・ハーシュ, ロバート・ホルト, デイヴィッド・ハル, クライヴ・ジョーンズ, ジェレミー・ケンダル, ベン・カー, アダム・クーパー, ジョン・ロートン, ロバート・レヴィン, リチャード・ルウォンティン, リーザ・ロイド, ルーシー・オドリン=スミー, ユージーン・オダム, サリー・オットー, パーニー・パッテン, ヘンリー・プロトキン, ヴァーノン・レイノルズ, ショーン・ライス, ピート・リチャーソン, ケイト・ロブソン・ブラウン, モンティ・スラトキン, スタン・ウリジャゼク, スティーヴ・ワインスタインの各氏. また, ロバート・ホルト, デイヴィッド・ハル, ベン・カー, そして1人の匿名の査読者は, 全体に目を通し, 多数の有益な助言をくださった. おかげで原稿を大幅に改善することができた. 技術的な問題や管理上の問題を解決するために尽力してくれたジーン・ドープルとラリー・ボンド, 図を作成してくれたアン・オドリン=スミー, 助力をしてくれたプリンストン大学出版のサム・エルワシーとサラ・ハリントンにも深く感謝したい. リーヴァーヒュームトラスト, ロイヤル・ソサイエティ, 米国立衛生研究所には財政的な支援をいただいた. 最後に, リチャード・ルウォンティンには, 熱心な支援と励ましをいただき, またこの仕事の始動にむけて私たちの背中を押してくださったことを心から感謝している. 本書を私たちそれぞれの妻, ロス, ジリアン, シャーリーに捧げる.

JOS, KNL, MWF

2002年4月